2012 年 5 月 13 日

自然観察会「青葉若葉の雑木林 」 ～ 生き物たちのせめぎ合い ～

NPO 法人四季の森里山研究会　井鍋、尾崎、渋谷、谷川

公園の雑木林も、輝く緑の若葉に覆われました。4 月に咲いていた草花や木々の花も、花の時季を終え、次々に実をつけはじめています。ところで、どの草花や木々も健やかに何事もなく育っているようですが、よくよく観察してみると、日照権や自分のエリアを確保するためのせめぎ合いのなかで、必死に戦っていることがわかります。当然のことながら草木は自由に移動できません。それだけに、日光(気温)、水、養分など成長のための条件をより優位に獲得するために、それぞれが、形や姿、成長の時季を変え、生き残りをかけて戦っているのです。四季の森の公園内でも、それぞれの草木が、必死に生き抜こうとしている様子を観察することができます。

草木自身の工夫と知恵

< 花を咲かせる時季と成長の様子 >

- カタクリ、ビワ
- タンポポ、オオバコ、ノゲシ、アザミ....

< 光を吸収したり、調整したりするための工夫 >

- 赤い色から緑の若葉へと変わる草木(イタドリ、クスノキ)
- 隣接する草木とのせめぎ合い。(つる状で覆うクズ、カラスのエンドウ)
- 生き残りをかけた工夫 (単葉と複葉、光量による棲み分け、樹形)

< 生き抜くための工夫 >

- 葉、樹液、花や実、種、蜜などを動物に提供する。
- 苦味、毒(アレロパシー)、トゲなどで守る。
- 根や株などで栄養を蓄える。
- 風や水などを利用して種を遠くへ移動させる。
- 動物に付着し運ばれる。

< 日光が良く差し込む斜面 >

< 日光があまり差し込まない林内 >

< カタクリ >

< ヤマブキソウ >

<タンポポのせめぎ合い>

<クズのつる>

<コムラサキ>

この他にも、雑木林には、人の手によって自然のままのせめぎ合いがうまく緩和され、種が保存されている場合があります。里山と自然とのかかわりを見直してみると、人が手を入れて草木の成長を助けたり、人にとって必要であるが故に、草木を長く保護してきたりしていることがあります。四季の森公園の生き物たちのせめぎあいと、人の手が加わったために、逆に種が保護されてきていると考えられる草木の様子についても観察してみましょう。